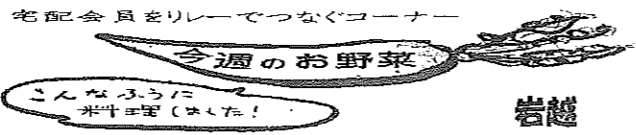


山北のうりと酢漬けでつけたタケノコ 伊藤勇作

先日山北の友人から「うり」をいただきました。スーパーで売っている「うり」は栽培しているもので癖もなく美味しいですね。中には色が出ないように栽培中にもみ殻をたっぷりして「白いうり」として販売しているものもあります。少し苦味があってゆでると粘りもあり、なんといっても軸のシャキシャキ感が良いですね。えぐみも少し少ないのでどんな料理にでも合います。自分はまずは天ぷらです。続いて酢味噌、生姜醤油も簡単ではあるのですがたいへんに美味しいですね。

続いてタケノコの話です。お客様で兄弟が集まるといろいろな作物や料理をいただくそうです。毎回そのお下がりを頂戴しているのですが、今回も大変めずらしいものを頂戴しました。タケノコを湯がいたものをスライスして梅酢と赤紫蘇に漬けたものなんです。タケノコが赤いのって見たことがなかったので一瞬戸惑いましたが実に美味しいのです。シャキシャキしていて程よく酢がきいていて紫蘇の良い香り。タケノコの季節はすぐに終わってしまうのですが来年が楽しみです。

梅酢に漬けるってのも良い保存食品になるんですね改めて日本はスゴイ！と思いました。



小松菜のあんかけ かた焼うどん
【ぞらやさんの小松菜とネギうどん】

材料(2~3人)
乾麺 250g
小松菜 1束
ネギ 1本
シメジ(シイタケ)半パック
タケノコ 小 1/2個
ホタテ缶 1缶
干しエビ 適量
ニンニク/生姜:各一片

a 水:2カップ
片栗粉:大2
オスターソース:大11/2
酒/醤油/:各大1

b うどんの下味を、
醤油大11/2入れて、
満遍なく混ぜておく

出来たうどんに
あんかけをのせて
出来上がり!

中華鍋に油を入れニンニク、生姜を入れ、香りを付ける(焦がさないように)
干しエビ、タケノコ、シメジ、小松菜の順に入れ、小松菜がしんなりしたらホタテ缶を入れ、さっと混ぜたらすぐに a の調味料を入れる。味は適宜調える。
※出来た物は他の容器に取っておく。
再度、中華鍋をよく洗い、火にかけ水気がなくなったところで油を鍋全体に回し熱せられたところで一度油を取り、急いで水道の蛇口のところで鍋の裏側の底に水をかける。
※こうすると、うどんが付きにくくなる。
油大2杯を中華鍋に入れ、煙が出たら b のうどんを入れ広げて焦げ目がついたらひっくり返し、底に斜め切ったネギを入れ、蓋をして蒸す。焦げ目をつけても焦げ付かないようにフライパンで返してこまめにうどんの底をさらう。酢・洋がらし・ラー油などお好みで。

【お知らせ】

- 2010年5月定例会
場所:ブルーベリーガーデン旭
日時:5月8日 土曜日 午後6時半から
- 大豆畑作業
日時:5月4日(火) 9:00~12:00
- 小田原まちなか市場
日時:5月3日(月) 10:00~16:00
場所:りそな銀行横駐車場
出店内容:五平餅・大豆スープ・黒米・味噌・大豆・ジャム・乾麺・煎餅等々

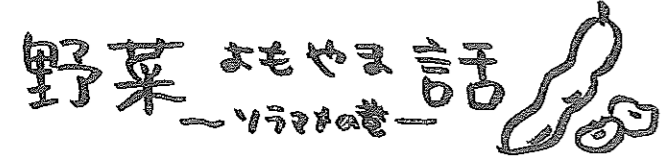
【編集後記】— 牛島田んぼ —

今年から、農の会のグループ田んぼに加わった「牛島田んぼ」。メンバーは杉崎聖/今井夫婦/鈴木淳子の3人。とにかく、初めてなので、道具から何から、揃えていなくてはならないのだけど、何が必要なかも分からず、色々聞きながら、どうにかこうにか作業を進めている。特に、3月の畦の補修では、スコップで畦盛りをすべきところを、まごのりさんにコンボをお願いし、笹村さんにも来て貰って楽をした。種まきでは、船原田んぼの作業に研修生として手伝う半面、牛島田んぼの分の土振りもして貰い、大変助かった。苗床準備では、岡田さんと小野さんが手伝ってくれて、楽しいひと時になった。この後岡田さんが「土の上では、人は水平なところに存在する...今まで自分はいかに縦の社会に生きてきたのだなと気づいた」と、感想を言われた言葉が印象的だった。牛島田んぼ一年目。皆様、お世話になります。(鈴木淳子)

【通信が置いてあるお店】

菜こんたん/ポタジェララ/カフェブラッサム/ IN NATURAL/バックシュトゥーベ IMAYA/ 季去来亭/アイラナ/えれんな ごっそ ショップ

旬の野菜を取り上げる、ぞらやさんの連載です!



「とうまめは植えたんか?」と近所のおばちゃんに聞かれはじめはなんのことやらわかりませんでした。多分「唐豆」なのですが、調べてみるとそらまめの呼び名は随分地方色があるようです。冬に育てるので冬豆という名前もあるそうで、地域によっては田んぼの裏作として栽培されていたこともあるようです。原産地は北アフリカで、古くから栽培されていたようで、日本へは奈良時代に中国から伝わりました。先月紹介したエンドウと同じように11月に種を播いて小さい苗の状態を冬を越し、3月を過ぎて暖かくなると急に成長し花を付けます。今年は3月末に気温が氷点下になってそらまめの花が凍ってしまうという被害がありました。下から上へ段々と花をつけていくので、少し遅れて出てきそうです。昔は乾燥豆を保存食としていたようですが、現在では青果として食べるものが多くなりました。栄養的にはたんぱく質、ビタミン B1、B2、C や鉄、食物繊維などをバランスよく含んでいて沢山食べたい野菜ですが、無農薬で作るのは難しい野菜の一つなので、農の会では貴重品かもしれません。空に向かって実がなるので「空豆」とか「天豆」とか蚕の繭に形が似ているから「蚕豆」とか書くようですが、穫り頃になると上を向いていた莢が下を向いてきます。

とらや 作業尚子

あしがら農の会

通信 5月号

第97号 2010年5月1日発行

編集・発行 NPO 法人 あしがら農の会
ホームページ <http://nounokai.com/>
代表 中村 隆一 090-4820-2753(携帯)
編集 鈴木 淳子 0465-72-5243(TEL/FAX)
E-mail : yamanohatake@ac.auone-net.jp

地場旬自給

あしがら農の会はあしがら地域に様々な循環を作りたいとの思いから、地場、旬、自給を掲げて、1993年に設立されました。(2003年にNPO 法人化)
地域の中の休耕田を借りて自給のための米作りから始まった会は、現在以下のような活動を行っています。

農産物の宅配: 会に賛同する野菜の生産者と、地域で自給のための野菜の作り手が集まって、無農薬・無化学肥料栽培の野菜宅配を行っています。(その他、米、お茶、果樹、卵、鶏肉、豚肉などもあります)

田んぼの会: 現在約100家族以上が、あしがら平野の13ヶ所で自給用の稲を育てています。

お茶の会: 山に戻ってしまうお茶畑を、市民で手入れできないかと始まりました。5月には参加者約100名が、各自1年分のお茶を摘み取ります。

大豆・味噌の会: 大豆は7月に苗作りから始まり、11月に収穫します。その大豆と、各自が田んぼの会で作っているお米で、1月には麴作りから味噌作りを行っています。

その他、四季折々の行事を行っています。関心のある方はどなたでも参加できます。

土からの便り ゆたゆた農園 小川

今年もまた春がやって来た。小田原に来てから3度目の春だ。毎年毎年、色々な出来事が起こるのでもうかれこれ何年も経っているような感覚だ。でもそんな時はいつも、何回田植え(米作り)をやったか、という事を思い出しながら月日の流れを感じています。

人参、ジャガイモ、葉物を播く3月頃になると、開墾したばかりのみかん畑に初めて種を播いた日のことを毎年思い出すのです。そしてそれと同時に今までの苦労もよみがえって来て、私たち頑張っているなぁ〜と自分で自分を励まし、夏に向けて忙しくなる私に気合を入れるのでした。今年はずいぶん畑がある久野地域では突風が何度も吹きました。去年はビニールハウスのビニールが突風によりピリピリに引き裂かれ、使い物にならなくなった。その時は張りなおす労力と出費に泣きました。だから今年もその風が吹いた時はハラハラ心配でなかなか寝付けず、寝不足気味。毎年ビニールを張り替えるのはごめんと思い、年明けから少しずつ補強していた。そのためか、今年は無事でした。と思いきや、突風が吹いた次の日の朝、トレスが畑から帰ってくると、「小屋の屋根がないよ!!!」と言うのです。ハウスが大丈夫なのになぜ小屋が?と一瞬思ったが、よくよく考えるとたしかに小屋も相当古かったんですね。飛んでいった屋根は隣のみかん畑にありました。自然災害とはいえ、隣の畑の地主さんにご迷惑なので、早急に直さなくては!と思ったが、大人2人ではとても移動できない重さなのです。しかたがないので誰か助っ人を、ご近所に住んでいる石井さん夫婦に助けをもらい、何とか元の定位置に戻ったので一安心でした。

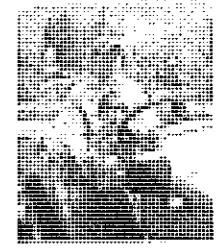
そして4月、田んぼの種まきと共に、新しいことが2つ始まりました。1つは笹村さんの養鶏場の目の前、みかん畑だったところを畑として借りることになったのです。すでにみかんの木は抜き、後は細かい根を取りのぞき耕せば良い状態になっていた。

しかしこんな雨ばかりの変な天候で普通の畑仕事も進まず、田植えの準備もありと、手が回らずほっぽらかしにしていた。それを見かねてか、岩越さんと山室さんがエンボの練習を兼ねて抜根を手伝ってくれると言うではありませんか、いつもお世話になりっぱなしの孫範さんと穂田さんに機械を借り、お願いしました。半分も終わっていなかったトラクターがけも、今日しか天気が良くないからと笹村さんが手伝ってくれた。困っているところに救世主現れる。そして今回は何人も現れたのでした。

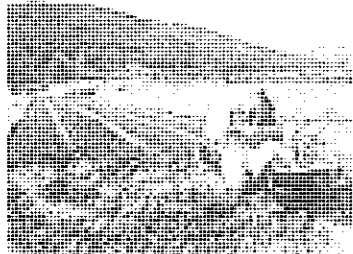
いつも人に助けられ、そのたびに深く感謝する日々です。2つ目は1歳半になる娘が保育園に行き始めたこと。近所に一緒に遊ぶ小さい子がいないというのと、私自身畑の仕事をもっとしたいと思い、預けることにしました。

始めは慣れない環境で体調を崩したりもしましたが、今は毎日楽しく過ごしているようで迎へに行っても素っ気ない出迎へです。親としては馴染んでくれて一安心ですが、もっと嬉しそうに出迎えて欲しいもの...微妙な心境ですね。

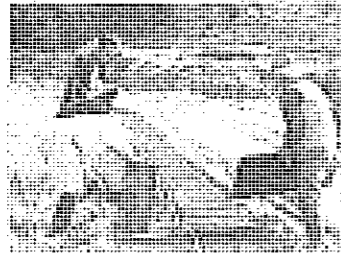
とはいえ、楽しいのが一番。週末は畑で泥んこになりながら遊んでいる。最近はやっとでも水があるとパシャパシャとやって水の感覚を楽しんでいるようです。



『Grasshopper eggs hatch when lilacs bloom(ライラックの花が咲くときバッタのタマゴが孵る)』トイレのカレンダーにそう書いてあるのを見て「そういえばひとつ咲いてたな」と庭に出ました。しかし木にはまともなつぼみは1房しかなく、他はすべて黒く小さく干からびていました。なぜ咲いていると思ったのかわかりません。夢で見たのかもしれませんが。「今冬の平均気温は、記録を取り始めて以来一番高かった」そうです。しかし直後(3/29)に寒波が到来し、「遅霜に注意」の文字が繰り返され、「4月中下旬の気温としては一番低い温度を記録した」と発表されていました。桜の開花は例年より10日も早かったのに、梅の実ほぼ全滅、お茶の新芽も山のタラの芽もしおれてしまいました。雨が多く、台風のような風が吹き、気温の上下が激しく心穏やかになれない今春です。



トラクターで耕耘

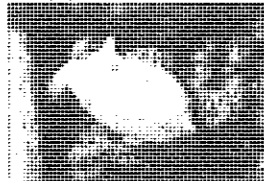
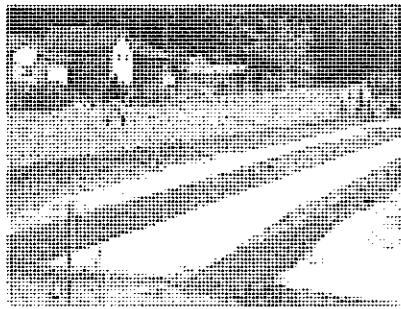


トラレーに3粒ずつ播種していき、ポイントにはトラレーを土に密着させる事



舟原で田代をやるのは2年目です。今年度の参加は、グループたんぼ×8+個人のたんぼ×3=計11たんぼで、約19.5反(≒2町≒2ha≒6千坪)分の苗床をつくりました。6日8日で前準備を済ませ、10日朝から全たんぼ参加でニギニギしくスタートしました。午前中に種まき用の土を運び、各たんぼ割り当てられた自分のシマ(苗床)を平均にならします。きちんと苗が育ちますように。

グチョグチョの田土に頭を悩まされた上に「全部場所に納まりきるのか??」と不安がよぎる主(又シ)。「えーうちは3人しかいないから(トレー運ぶのが大変だから)苗床場所を一番手前にして!」と主張する姫。(そして何気に作業を紳士二人に手伝わせる技!)「(種まき用の)土はこれで十分だね」とみんな帰っちゃったあとで「土が足りないみたい」ドタバタ劇のような喧騒があると思えば、奥の方では和気あいあいと大人数で自分等の縄張りを均している。お昼に楽しいカレーパーティーを開くグループ在り。ああ、楽しいなあ...。10日は、普段の行いが良いので、終日とても良いお天気に恵まれたのでした。



種まきは、各たんぼ予約した日時に行います。運んできた山土をふるってセルトレーに入れ、前もって水に浸けておいた種籾を2~3粒ずつ撒いて覆土します。それをたんぼ1反当たり50~80枚相当準備し、苗代に運び、並べ、苗床にしっかりと押し付け、ラプシート(不織布でできた白いカバー)を被せ、飛ばないように工夫しました。だいたい半日前後の作業です。細かい作業なので大変なのですが、2週間のうちにあーだこーだと更なる技術アップが進みました。人間ってすごいね。

田植えまで約8週間。かわいいベビーたちに笹村さんがたっぷりの愛情と水を注いでくれます。元気な苗が育ちますように!美味しいお米がきつとまた大漁、じゃなかった豊作だ!(笹村さんありがとう)

●行程●4月6日(鶏糞撒き)●8日(荒起、水準器、苗床場所割振)●10日午前(耕運、水系はり、各自苗床均し、土運び)●10日午後~25日(各たんぼ順次種まき)

小惑星探査機 はやぶさ

瀬戸 ホイ

地球と火星の軌道に重なるような軌道をもっている、小惑星イトカワ、大きさは535m x 294m x 209m。それを調査するために、はやぶさは2003年に打ち上げられた。

2005年にイトカワに到達し、詳細を撮影し、タッチダウンした。イトカワの岩石を採取して、地球に持ち帰る計画だ。

タッチダウンした後、交信が途絶えたり、燃料が漏れたり、推進装置が故障した。そのたびに知恵を絞って対策を行い、計画から3年遅れの2010年6月に地球に帰還する。

はやぶさは、人の手や目を延長した道具だ。まんがのワンピースの主人公の腕はぐーんと伸びるが、はやぶさの腕は火星のあたりまで伸びた。握った手の中に岩石はあるだろうか。

新しく畑を始めました

山室光由

今まで本格的な農作業をした事がなかったので、去年の6月頃から生産者の松本さんの所で手伝わせて貰いながら、色々な事を教えて頂きました。今年の2月頃に笹村さんから「久野に良い畑があるので見に行きませんか?」と誘われ、やらせて貰う事にしました。僅か10ヶ月足らずしか作業経験が無い者が、約8畝の広さの畑をやるのは、「無謀だ、無理だ」と言う声もありましたが、頭で考えるよりやってみなければ分からないと思いました。

作業している中で、ミカンの根の長さに感心したり、蟬の幼虫と出会ったり、雨上がりに行ってみると一面が土筆だらけだったり、畑に行く度に何かしら気付かされたり、発見したり、畑に行く事が楽しくてしょうがありません。妻や子供達も喜んで作業をしてくれるので、とても助かります。

今はニンジンとジャガイモと緑肥用のえん麦が発芽して、大分知らしくなってきました。この後は、牛蒡、トマトやオクラなどを植えてみようと思っています。最初は、真似ごとでしかないかもしれませんが、そのうち自分なりの考え方、やり方が見えてくると思っています。畑の近所の方たちも、親切にしてくれてとてもありがたいです。

農業をやられている方がほとんどですが、とても話好きで話し出したら中々止まらないです。農家の人達は、無口な人たちが多いのかと思っていましたが、そんなことはない様です。黙々と作業する分、喋りだしたら止まらないのかも知れません。何年間か耕作していなかったのが、草取りは手間がかかるとは思いますが、安全で安心して食べられる野菜を自分で作れる幸せを大事にしながら取り組んでいきたいと思っています。

「平和の畑」

笹村出

「一人・100坪・1時間の自給農」これで食糧の自給はできる。食べる物が自給できる、安心立命。すべての原点はこのことにある。平和市長会議でも平和のためには、飢餓の問題・食糧の確保を平和の条件としてあげている。世界の多くの諍いは、食べ物が無いことから起こる。誰もが苦勞せず一時間の労働での食料の確保は可能。あしがら農の会の求め敵たものと連なる。

この原点に人類が立てば、多くの紛争はなくなるはずだ。4月24日「ピースウォーク from 沖縄」の皆さんと共に、平和の農作業を行った。

今回の事は平和の農作業の出発だと思っている。農の会から生まれた、ピースカフェあしがらも、そのことだったのだと思う。

「平和の農法」

- 1、出来る限り機械を使わない。
- 2、生産は自給自足の範囲に抑制する。
- 3、地域で全てが循環する農法を行う。
- 4、一日1時間、年間365時間で農業を行う。
- 5、一人100坪以内で農業を行う。

ぶた小屋通信 10'05

県の水源税のお陰でしょうか、最近山北辺りで、急に森林の手入れが進んでいます。

と思っていたら、この春、うちの農場の周りのヒノキ林にも、下草刈りの人が入ってきました。ずいぶん眺めが良くなったと思っています。

今度は間伐隊。たまたま知り合いの業者の方でした。

その人いわく、「本当なら人工林は材木の価値の為に山の手入れが進むのがよいと思っています。

そういう木材生産のための補助金もいろいろあったのだから、森林組合なんか補助金を活用して、熱心に山主に整備を働きかけていけば、違ったのかもしれない。

今となっては水源の保全のためという形でやらざるを得なくなりました。」ちょっと不本意なその気持ち、分かるような気がしました。

「お米は買わないけど、水田風景は大事だから水田つぼくしておいてくれれば、お金あげるよ」と言われたら、やつぱりさびしい思いがするだろうと思います。大事に喜んで食べてくれる人のお陰で、うちの農場は、「ふれあい観光豚牧場」にならずに済んでいます。(かろうじて..)